

事業名(団体名)：米沢の森に生態系の環を復元、そして繋ごう次世代へ！(市原米沢の森を考える会)

目的

間伐・除伐などにより、植物や野鳥など生物の種類が増え、少しずつ生態系が本来の姿に戻りつつある。今年度は、域内の水辺を整備し水生生物の復元を試みるなど、さらに豊かな生態系の実現を図るとともに、現状の自然観察とその記録を残す。

また活動に子どもや若者の参加を促し、環境や生物多様性、地球温暖化防止への関心を深めさせるなどして、大切な里山として次世代に引き継ぐ良策を図る。

内容

・里山整備

森林の間伐・除伐・草刈り、市道・赤道を遊歩道として整備、水路の整備、湧水水源調査、里山整備一日体験講座(一般・学生対象)

- ・季節ごとに昆虫・水生生物・野鳥・野草・樹木の観察会を実施
- ・古墳群の周囲整備と歴史・文化の調査
- ・ものづくり教室 間伐材や竹を使ったものづくり体験や椎茸づくり
- ・「水生生物による水質調査」県・市からの調査依頼に参加

今後の方針

- ・米沢の森の整備・保全の継続
- ・生物多様性の貴重な場所として保護する。フィールドの整備が必要であるので専門家の指導を受ける。
- ・景観を活かして地元の活性化につながる事業を考えたい。



(安全講習会)



(自然観察会)



(里山体験教室)

団体概要

最初は、広大な米沢の森(82.4ha)で、森林・谷津田・巨樹・古木を保全整備し、地域住民の癒しの場として再生・活用を目指して活動を始めた。その後、活動を理解し参加してくれる人々の助力で古道や森林を整備している。里山と暮らしの営み、歴史文化など多様な面を次代に繋げたい。会員は40名。定例活動日は毎月第2・第4日曜日。



(トキョウサンショウの成虫と卵塊)

(エリアガエ)

(サガ)

これまでの主な活動

- ・里山を再生し、景観を整える。特におじゅうはっちゃ峰から360度の景観が広がれば、観光スポットとして地域の活性化が可能となる。
- ・森に係わる文化・歴史を調査し、里山の文化的な関心を高め、次世代に伝承する。
- ・森づくりを通じて環境問題の啓蒙と会員の知識と技能の向上を図る。地球温暖化防止の一端を担う貴重な緑を育む場所にする。
- ・米沢の「癒しの森」から地域コミュニティの発信をする。
- ・貴重な自然生態系の調査と保護を目指す。

住所：〒290-0509 市原市安久谷 102-8 電話：0436-92-1196

代表者：鶴岡 清次 Mail：kenneth@ksf.biglobe.ne.jp